令和 6 年 12 月 19 日　区長記者会見

【司会】
それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和 6 年 12 月 19 日北区長定例記者会見を開始いたします。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。私、広報課長の窪田です。よろしくお願いいたします。
本日は、やまだ区長、福田教育長のほか、政策経営部長の藤野、教育振興部長の倉林が出席をしております。それでは早速ですが、区長、よろしくお願いいたします。

【やまだ区長】
改めまして皆様こんにちは。本日は 12 月 19 日区長定例記者会見に年末お忙しい中、皆様お越しをいただきましてありがとうございます。座らせていただきます。

本日の表紙、一枚目はですね、赤羽駅西口のイルミネーションです。今、区内では街を彩る商店街イルミネーション事業としまして、各商店街・駅前でキラキラとイルミネーションで彩られています。
こういったイルミネーションとともに、区内各商店街で歳末売り出しもしておりますので、ぜひとも区内の方々にも商店街をご活用いただきたいなという思いで表紙にさせていただきました。
併せて、その年末、歳末の売り出しに合わせて、今、政府の方で総合経済対策が可決されました。これを受けまして、私たち北区といたしましても、北区エネルギー・食料品等価格高騰支援給付金を追加で支給することが決定しました。
通常ですと申請がですね、基準日というのがありまして、基準日が 12 月 13 日をもって対象データを作成して支給していくんですが、北区といたしましては、1 日でも早く対象となる方々に支給をしていきたい、年内少しでもお届けできたらという思いで、早めの手続きを開始させていただいております。職員の皆さんも頑張ってもらっていまして、区としては最速のスケジュールを実現しました。12 月の 2 日、区独自として基準日を設定いたしまして、12 月 2 日時点で対象となる方を抽出し、12 月の 18 日、昨日から手続きの書類が発送となっております。これは手続きが必要なものでございますので、ぜひ皆様お忘れのないよう手続きをお願いしたいと思っております。以上です。

それでは、記者会見の方に移らせていただきたいと思います。本日はですね、9 年ぶりとなります北区の教育長が新たに任命されました。これを受けまして、今月の記者会見は、新教育長のご紹介と、これからの北区の教育政策についてのお話をさせていただきたいと思っております。
まず、教育長任命につきましては、区長の選任事項であります。私が今回、新教育長に福田教

育長を任命させていただいた、その考え方、それとこれからどのような教育施策を教育委員会と区長部局で行っていきたいかということを簡単にお話しさせていただきたいと思います。

まず、これまで 3 期 9 年間、清正前教育長が務められました。清正前教育長のもとでですね、北区の教育はかなり成果が上げられたと思っています。

一つ目に、学力面です。基礎学力の向上が充実したと考えています。これは学力の指標である全国の小学校 6 年生、中学校 3 年生全員を対象といたします文科省の全国学力調査、この調査の数字がすごく上がったということです。中学校 3 年生では、北区学力調査導入以来ずっと調査対象の国語と数学はともに全て全国平均を下回っていましたが、清正教育長のもとで様々な取り組みを行い、近年ではその点数も上昇し、ここ直近の数年間は調査対象の国語、数学、理科、英語とも全て全国平均を上回り、今年はですね、国語と数学とも過去最高を記録しました。

また、小学校 6 年生の学力も上昇いたしまして、直近では調査対象の国語、算数、理科とも全国平均、そして東京都の平均も上回る数字となっております。そういったことで、基礎学力の向上に向けた取り組みの成果が出ています。

そして、二つ目には、行政内での関係機関の連携強化が図られた 9 年間だったと感じています。平成 28 年 4 月から、もともと区長部局にありました子ども関係の部、今で言いますと子ども未来部ですが、都内で初めてですね、教育委員会部局に組織改正をいたしまして、就学前から就学後の子供たちを一貫した支援をしていくという考え方のもと、部署、組織改正をして連携を強化してまいりました。

昨年、いろいろな流れの中で子どもの条例を制定し、また、子ども家庭センターを設置していく上で、区長部局に子ども未来部を組織改正、改めて戻すような形で組織改正をいたしましたが、これは教育委員会と部局の中で十分連携が強化され、その成果が出たので、改めて区長部局に戻るような形で対応をさせていただいた次第です。どちらにいたしましても、教育委員会と区長部局との連携、また教育委員会と学校、そして教育委員会のですね、子ども施策の進み方が本当に清正教育長、前教育長のもとで改革が行われてきた 9 年間でした。こういった成果がしっかりと見えたというところで、これまでの清正前教育長の 9 年間の取り組みを継承しながら、その成果を基礎として礎として新たな展開、次のステージに進むことができると考えて、新しい教育長選任に向けて検討させていただきました。

北区のキャッチフレーズであります「教育先進都市・北区」の NEXT STAGE をつくっていきたいという思いでした。これが大きく変化、加速しながら変化していく社会情勢に、北区の教育や教育現場が対応していくことができる、そんなリーダーを任命したいと思い、四つのポイントを考えました。

一つ目はですね、やはり今、子どもたちを救っていくというか、子どもたちに丁寧な対応をしていくためには、教職員の皆さんのサポート、働き方改革を徹底していくことが重要だと考え、

これまで教育長は主に区の職員から上がっていくような形だったんですが、学校現場により近い視点で改革ができるように、校長先生経験者である方を任命したいと考えました。これが一点目です。

そして二点目は、これまでの基礎学力の向上とあわせて、今度はですね、やはり生きる力、心の教育を充実させていく北区の教育を目指したいという思いで、個の成長に合わせた教育を経験されている、特別支援教育ですとか特別支援学校、また心理に関する造詣が深い方を任命したいと考えました。

三つ目が、北区の大きな目標であります「子どもの幸せ No.1」。これはですね、子どもを社会全体で育てていくための環境づくりとご説明させていただいております。学校現場、児童・生徒、保護者をオール北区で支えていく仕組みづくりを、地域との連携、区と区長部局との連携で作りたいという思いで、地域と学校が連携していく、このことをですね、特に取り組まれてきた、例えばコミュニティスクール、そういった活動をされてきた方。

そして四つ目が、これはですね、今まで北区出身、また北区での学校や、北区の職員だった方々が教育長やられていたんですけども、区外の方も含めて広い知見、経験を持たれている方々に、外から見た北区の教育という視点で関わっていただきたい、知恵をいただきたいという思いで、例えば各区市ですとか、海外、民間、様々な経験をされてきた方ということをポイントの四つ目として考えておりました。

そんな中でですね、福田晴一新教育長にお声をかけさせていただき、様々な議論の末、ご英断をいただいたという現在に至ります。今日は福田新教育長から、ご本人から、自己紹介とこれからの取り組み、これまでの取り組みもそうなんですが、これからの教育先進都市・北区 NEXT STAGE の内容についてもご説明をいただき、みんなでこれからの未来の北区の教育について考えていけたらというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

北区の基本姿勢である、「みんなで創る 北区新時代！」の主要政策「子どもの幸せ No.1」、この北区実現に向けて、新福田教育長と二人三脚で教育委員会、また区長部局としっかり連携をしながらですね、政策を前に進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、福田教育長、よろしくお願いいたします。

【福田教育長】

はい。改めまして、新しく教育長就任しました福田晴一です。よろしくお願いします。本日はですね、年末のご多忙の中、お集まりいただき誠にありがとうございます。ただいま、やまだ区長から選任の四つのポイントを初めて言語化したのを聞いて、とても嬉しく思いつつ、ちょっとジーンときているところでございます。着座にて失礼致します。

今、区長からお話がありましたとおり、就任の挨拶としてですね、自分のこれまでの教育をメインとした経歴と、教育先進都市・北区の NEXT STAGE に自分がどのような思いを馳せているか、その 2 本柱で話したいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

それではスライドに合わせてお話を進めていきたいなと思います。まず、私の教員歴の方をお話ししたいなと思います。

私は大学では特別支援を専攻してまいりました。小学校の教員、東京都の小学校の教員、約 20 年間勤めました。管理職としては、区立の特別支援学校、区立の養護学校に管理職としてまずは勤めました。区立の養護学校ゆえ、知的障害のみならず、肢体不自由、もっと重篤な訪問学級、また義務教育前の就学前の幼児教室も備えているという区民のニーズに応えた養護学校でした。

それゆえ、時々亡くなるお子さんもいます。教科書もありません。その子にあった教材を作って、その子にあったやりとりで、教員がまさに個に応じた指導の、究極の教育現場を 4 年間努めてまいりました。

その後、ご縁がありまして、アメリカのペンシルベニア州フィラデルフィアの補習授業校の校長として勤めてまいりました。ここでは自分の娘二人がですね、現地校に通っている中で、保護者としてアメリカの公教育、まさにですね、可能性を引き出す、そして多様性を重んじるアメリカの学校現場を見てまいりました。

一例を挙げます。長女が「パパ、何とかはね、算数がとてもできるから、午後はスクールバスで中学校行っちゃうんだって」っていう話を聞きました。また、次女はですね、「パパ何とかはね、今年の勉強はよくできなかったから、もう一回 3 年生をやるんだって」っていう話を聞くんですね。これ 20 年前のアメリカの東海岸の公教育です。まさにですね、可能性を引き出す多様性を重視した現場を目の当たりにしてきました。そんな 40 代の 7 年、8 年、特別支援教育から普通教育を客観的に見る、また在外、海外から日本の、言葉は失礼かもしれませんが、ある意味画一的な公教育を見てくる、そんな 40 代でした。

帰国して、こちらに示されている通り、杉並区立和田小学校の校長として戻りました。当時、杉並区和田中学校ではですね、リクルート出身の民間校長 藤原和博先生が教育改革のもと、いろんな教育政策を打ち出していました。中学校 50 分授業を 45 分にしてコマ数を増やし、英語学力を上げるっていうマニフェストを作ったり、また教員志望の学生を土曜日に呼んで生徒支援する土曜日寺子屋、放課後空き教室をですね、民間の塾に貸し出す夜スペなど、まさに民間の経営スタンスを隣の学校で見てきました。そんな民間校長との 6 年間で、私はですね、学校運営っていう言葉がまだまだ当時はメインだったんですけど、これから学校経営なんじゃないかなというような思いをはせました。

その後、定期異動もありまして、杉並区初の統合新校、天沼小学校の校長に就きました。当然、統合新校ですから、ハードウェア、ソフトウェアは充実しております。こちらに示されているように、2013 年に校長となりましたが、確か 2016 年には 4 年生以上には一人 1 台端末が配備されている学校です。ゆえに、GIGA スクール構想の数年前から一人 1 台端末がありましたので、プログラミング教育、情報教育、ICT リテラシー等々の研究を推進してきました。あわせて、杉並区が進める、先ほど区長も話されていましたが、地域共同推進、コミュニティスクールのモデル校でしたので、文科省をはじめ多くの自治体の視察を受けてきた次第でございます。

この 2018 年、退職するまでの約 40 年間、これは私の人生においてファーストステージだと思っています。人生の基盤のファーストステージだと思っています。退職した後は、このセカンドステージとして、その約 40 年間の経験を今度は、格好よく言えばフリーランス、マルチワークというんでしょうかね、という形で、まず自分の専門性を生かして、心理職として大学で後進の育成にあたったり、また自治体の今いろいろ課題のある特別支援教育、特に発達障害のお子さんの巡回指導に当たってきました。

同時に、プログラミング教育を推進するという大きな、やはり日本の学校教育がありましたので、そういうところを民間の NPO に籍を置いて、全国で研修等を重ねました。

あわせて、コミュニティースクールも文科省のいろいろご支援を受けながら自治体支援に入った次第でございます。その他いろいろ各自治体の研究会講師等を務めて、まさにですね、自分ではセカンドステージ、本当にやりたいようなことをやれたなって実現をしております。

そして、2024 年、今年ですね、ご縁がありまして、ご縁がありましてじゃないですね、区長からの選任を受けましてですね、北区の教育長、本当に嬉しい限りでございます。ありがとうございます。

自分としては、人生の基盤のファーストステージの 40 年間の現場、続いてセカンドステージ、自分の自己実現の 7 年、8 年、そして今度はですね、サードステージとして坂の上の坂を上る、まさに教育行政の景色を見に来たつもりでおります。ここに示している通り、私は教育行政の経験全くありません。多彩な現場ばかりを歩いてきました。ですので、まだ教育行政はど素人ですけども、事務局の方々の支援に、本当に支えられながら、これから自分の知見を生かし、経験を生かし、先程区長の命を受けて、教育ビジョン 2024 を次なるステージにアップしたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自分としては人生 100 年時代、生涯学習だと思っています。やはり学び続ける姿勢を打ち出したいと思っています。これを合わせてですね、校長先生、園長先生方にも伝えたいなという発信です。

校長職、園長は上がり職にしてはいけないと思っています。校長先生、園長先生は豊富な知見、経験、交渉・対応力を持っています。ぜひその力をですね、やはり退職後、セカンドステージとしていろんなところで発揮する、それが日本の公教育を支える底力になるんじゃないかなと思っております。

以上、ここまでがですね、私の教育を中心とした経歴でございます。

続きましてですね。ここから少しメモを見ながらじゃないと危ないので、メモに目をやりながらで失礼させてもらいます。まずこちらのスライド、北区の教育の現状と課題を踏まえまして、今年度教育ビジョン 2024 を策定いたしました。そして、この教育ビジョン 2024 ですが、当然ですね、今の教育ってのは学校だけで完結するものではございません。まさに社会総がかりで取り組まないと、やはり公教育は非常に厳しい状況にあります。ゆえに、教育委員会を中心として、

社会のリソース、区民の皆様方、また関係機関との連携をして、このビジョン 2024 を次の NEXT STAGE に上げたいなと思っております。そこで、大きく 4 つのポイントを打ち出しました。この後、その 4 つの基軸については詳しく述べたいなと思っています。4 つの基軸「心の教育」、「保護者サポート」、「教員支援」、そして「教育 DX」です。では一つずつ述べていきたいなと思っております。

まず、「心の教育」です。最初の 3 行は読み上げたいと思います。心の教育を充実させ、子どもたちの「生きる力」を伸ばす。子どもたちの心の安定が、学力の向上だけでなく、保護者の安心にもつながっていく。OECD の PISA のテスト、また、つい先日公表されました数学・理科の TIMSS のテスト、日本はともにですね、高いスコアを出しております。しかし反面、ICT 活用、デジタルリテラシー、そして自己効力感においては、残念ながら課題がたくさんあります。

また、今回の調査では、理系の男子、文系の女子というふうにアンコンシャスバイアスがですね、いろんなところに散見されております。そのような背景から、従来の学校教育の枠組みになかなかそぐわない児童・生徒が増加し、その結果、不登校児童・生徒が 35 万人になっていると私は考えております。

そこで、誰一人取り残さず、個々の可能性を引き出す、非認知を大事にした探究学習にまずは取り組みたいなと考えております。あわせて、不登校児童・生徒の実態に即した居場所づくりを目指してまいります。そのためには、大学連携、企業連携等々、また、区内の退職された校長先生方の豊富な知見、経験を生かしてまいりたいなと考えております。

次、新機軸の二つ目、「保護者サポート」です。複雑多様化する教育の課題は、子どもたちだけを見つめるのではなく、保護者も含めて一体的にサポートすることで解決に導いていく。心身ともに健やかな成長を目指すには、やはり学校と保護者・家庭が一体化する必要が絶対にあります。換言すれば、家庭の安定が子どもたちの健やかな成長を促します。

私の海外の経験で、駐在派遣の先輩はこんな言葉を残しております。うちも子どもが随伴していましたので、「校長先生、まずは子どもの安定が家庭の安定になります。家庭の安定が仕事の安定になります」。まさにこれはアメリカの子どもファーストの文化を垣間見てきました。どうでしょうか。今の日本にもこれは通用するんじゃないかなと自分は思っています。特にですね、不登校児童・生徒の保護者には言えると思います。中学生の不登校生徒の家庭は、子ども中学生だから、お昼を作っておいて、ご両親共働きでも働きに出られると思います。小学生どうでしょうか？中学年、低学年の場合は、やはり親御さんは心配でたまらないと思います。それぞれご両親働いても調整をして子どもを見守る体制を作ったりします。当然、正規雇用は非正規雇用になったり、アルバイト・パートになったりとなれば家庭の経済負荷がかかります。同時に家庭の不安定にもなると思います。そうなるとですね、不登校対応が家庭問題になるわけです。まさに負のスパイラルで不登校解決が深刻化、長期化するんじゃないかなと思っております。

そこで私は不登校対応として、多層的な支援システムを作っていきたいなと思っています。もちろん、まずは学校現場、先生方、クラスの対応が第一ですが、その上に、今東京都が進めている特別支援教室の充実、あわせて本区ではですね、校内別室、時には学校によっては昇降口も交えて違う居場所をつくろう。それを更に進めまして、校外別室、学校ではないところにも別室を作ろう、もう一歩ギアを上げまして、オンライン、バーチャル空間での居場所もこれから検討、今試行しているところでございます。これは大きな期待が持てるんじゃないかなと思っています。

同時に、保護者サポートですから、不登校児童・生徒の保護者の不安、心配はたくさんあります。そのあたり、あたりと言っては失礼ですね、そこをですね、今も既存の不登校児童・生徒の保護者のコミュニティーがちょっとできています。そこを価値づけをして、お互いの共感できるような空間、時間を作って、お互いを支え合えるような文化を作りたいと思います。そのためには課題をですね、総合的、俯瞰的に見て、なおかつ関係諸機関連携ができるソーシャルスクールワーカー、SSW の拡充が必要かなと私は思っております。

続いて 3 点目の基軸、これはまさにですね、日々子供と接する教員支援です。教員の働き方改革を進め、学校現場をやりがいのある職場にし、教員一人ひとりが教育先進都市・北区の最前線を担う教師としての矜持を持つ。

学校が、教員が教育活動を自信を持って行うには、やはり法的根拠の裏打ちが必要です。特に昨今、保護者からの専門的で、なおかつ多様な要望もあります。そういう時に、やはり教育委員会として支援体制の構築が望まれます。また、今までの日本の教育は公助に頼ってきたと思います。これからは社会総掛かりで教育を支えないといけないという観点からは、公助のみならず共助、扶助も絶対に必要だと思っております。その仕組みを作るのは難しいですが、少なくともムーブメントは推進していきたいなと考えております。

そこでまずは、学校法律相談の専門職を導入したいと考えております。スクールロイヤーという名称に呼んでもいいと思います。あわせまして、共助、扶助の観点からも、地域力を生かした学校運営のみならず、学校経営もサポートするコミュニティスクールの検討もしてまいりたいなと自分は思っております。とにもかくにも、教員、ブラックと言われている先生方が疲弊せず、教師としてのまさに矜持を持てるように、プライドが持てるような支援を最大限努めてまいりたいなと思っております。

最後、基軸の 4 番目です。教育 DX。これはですね、今までの基軸 1、2、3 を総合的に見たプラットホームと考えてもいいかなと思っております。心の教育をはじめとする教育の質の向上、学校経営、保護者サポート、教員支援など、教育行政を推進するための基盤となる DX を一層推進してまいります。

今、文部科学省では、NEXT GIGA、次のステージの NEXT GIGA もいろいろ推進が進められて

おります。その環境整備をですね、国のガイドラインをもとに早く着手したいなと思っています。GIGA スクール構想、FIRST STAGE は文具でした。次の NEXT STAGE、NEXT GIGA は文具を超えて、子供の自己実現、表現のツールになってほしいと思っています。テクノロジーを活用して、自己理解のもと、自己調整から自己表現、自己実現。そんなツールに NEXT GIGA はしたいなと思っております。

そのプロセスを子供たちが自覚できれば、まさにメタ認知であり、それから基軸 1 にも述べました、非認知能力の醸成につながると思います。この非認知能力は、PISA のテスト、それから TIMSS のテストもあるように、日本の今の公教育の課題となっていますので、ぜひそこら辺をですね、推進していきたいなと思っています。

そこでアクションとしましては、時代に合った学びの質、授業改善を目指して、区内では研究協力していこうとの発表がありますので、そこでの蓄積された実践を区内で活用し、と同時に、指導主事を各学校に訪問し、また退職校長の豊富な知見を生かして最大限支援してまいりたいなと思います。再掲になりますけども、あわせましてですね、やはり不登校対応は必須です。今後はバーチャル空間での居場所も導入してまいりたいなと思っています。

最後に、本区では各先生方の教員の端末の入れ替え時期となっております。これを機にですね、現場の先生方と意見交換をし、現実的な、実効性のある授業改善、業務改善にできるようなシステムをできるように、現場の声を最大限拾い上げて働き方改革を進めてまいりたいなと思います。そのような流れが、この最後の基軸、教育 DX 全般のプラットホームと考えております。

以上、簡単ではありますけども、私の自己紹介を兼ねた経歴と、教育先進都市・北区、教育ビジョン 2024 の NEXT STAGE にかけた思いを述べさせてもらいました。どうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

【司会】

ありがとうございます。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。質問の際には、挙手の上、職員が持参するマイクを使ってご発言をお願いいたします。まず、本日の記者会見の内容に関しましてご質問ございますでしょうか。

ご質問よろしいでしょうか。はい、それでは、以上をもちまして、本日の記者会見は終了させていただきます。ありがとうございました。

【やまだ区長・福田教育長】

ありがとう。どうもありがとうございました。